

1. 科目名 (単位数)	心理学的支援法 (演習)	3. 科目番号	PSMP3151
2. 授業担当教員	近藤 重晴		
4. 授業形態	グループ発表、ディスカッション、体験学習 (ロールプレイなど)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	心理学的支援法 (基礎) ・心理学的支援法 (心理療法) ・臨床心理学概論を履修していること。		
7. 講義概要	心理学的支援法とは、何らかの援助を求める人(クライアント)に対して、行動変容を目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする試みのことであると考えられがちである。しかし現代社会においては、心理援助を行う者の心構えは(カウンセリング・マインドと言われる)、対クライアントのみならず、地域支援やクライアント関係者、また大学での友人関係や部活動並びに職場や家庭においても「お互いに支えあう人間関係」を築く上で、重要な考え方とあり方を示唆している。そこで、本演習では、カウンセリングの理論と技法を学ぶと共に、より広く訪問支援や地域支援、クライアント関係者支援などの援助についても学び、自分の日常のコミュニケーションのあり方を振り返りながら、相手に寄り添うより適切な援助法を身に付ける。また、守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮も学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。</li> <li>2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。</li> <li>3. 対クライアント以外の援助技術(訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等)について理解できる。</li> <li>4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。</li> <li>5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。</li> </ol>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前には必ず該当部分に目を通す。</li> <li>・発表資料作りをし、授業で発表をする。</li> <li>・2回レポートを提出する(A4用紙 2枚、2,400字以上)。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングの実践問題 カウンセリングをする上で、どのような問題があるのかを調べ考えることは重要であり、教科書の学習内容の理解を深める。本設題について文献を2、3冊調べながら、単なる文献のまとめではなく、疑問点も含めた自分なりの意見をまとめる。</li> <li>2. 事例の紹介と自分の意見 カウンセリングの実践の1事例を選び、内容を紹介するとともに、疑問点・問題点も含めた自分なりの意見を、文献を2、3冊参考にしてまとめる。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】窪内節子・吉武光世著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館、2003。</p> <p>【参考書】竹内健児『Q&amp;Aで学ぶ心理療法の考え方・進め方』創元社、2015。</p> <p>【教材】随時資料を用意し活用する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。</li> <li>2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。</li> <li>3. 対クライアント以外の援助技術(訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等)について理解できる。</li> <li>4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。</li> <li>5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>授業への参加(出席、態度、発言) 50%</p> <p>レポート・発表・確認テスト 50%</p> <p>以上で評価を行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習形式と実習を中心とした授業であるので、主体的に取り組むこと。</li> <li>・事前に該当頁を必ず読み、分からない言葉・用語・概念などを調べて、授業に臨むこと。</li> <li>・発表者は、該当頁についてしっかりと調べてまとめること。</li> <li>・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。</li> <li>・他の受講生の学習に迷惑をかける行為(携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等)をしないこと。</li> </ul>		
13. オフィスアワー	原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・心理療法の進め方(心理療法とは、セラピストに期待されるもの、場面構成、心理療法の実際、セラピストの倫理)	事前学習	テキスト pp.1~8 を読んで、心理療法の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「治療構造」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。

第2回	・精神分析の理論と技法(精神分析の基礎理論、無意識の理論、性の理論、こころの構造とその機能、心理療法としての精神分析)	事前学習	テキスト pp.14～39 を読んで、精神分析の概要、フロイトの理論について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「エディプス・コンプレックス」「防衛機制」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第3回	・フロイトからの分派(アドラーと劣等コンプレックス・権力への意志、ユングと分析心理学)	事前学習	テキスト pp.46～53 を読んで、アドラーとユングの理論の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「普遍的無意識」「元型」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第4回	・フロイト理論の発展と修正(クラインに始まる対象関係論、ウィニコットと遊び)	事前学習	テキスト pp.56～62 を読んで、対象関係論について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「対象」「二者関係」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第5回	・交流分析(交流分析とは、自我状態と構造分析、交流パターン分析、ゲーム分析、脚本分析) ・実習(エゴグラム)	事前学習	テキスト pp.67～77 を読んで、交流分析の理論について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の「エゴグラム」について振り返り、自分について理解した内容をノートにまとめ、疑問点については次時の授業で質問する。
第6回	・心理療文献の検討1(精神分析的心理療法の事例)	事前学習	精神分析的な心理療法の事例文献をよく読み、自分なりの理解をしておく。
		事後学習	「見立て」「技法」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第7回	・クライエント中心療法(誕生の萌芽、ロジャーズ理論の歴史的展開、クライエント中心療法の基本的な考え方) ・フォーカシング(フォーカシングとは、フェルト・センス、フォーカシングの基本的ステップ、五つのスキル)	事前学習	テキスト pp.83～95、pp.99～103 を読んで、クライエント中心療法とフォーカシングの概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「カウンセラーの3条件」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第8回	・行動療法(行動療法とは、行動療法の歴史、学習理論、行動療法の諸技法、行動療法の特徴) ・自律訓練法(自律訓練法とは、自律訓練法の歴史、自立訓練法の標準練習、自律訓練法の諸技法、自律訓練法の特徴) ・練習(不安階層表)	事前学習	テキスト pp.106～114、pp.119～126 を読んで、行動療法と自律訓練法の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「系統的脱感作法」「フラッディング法」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第9回	・認知行動療法(認知行動療法とは、認知行動療法の歴史、認知行動療法の主な理論、認知行動療法の特徴)	事前学習	テキスト pp.129～141 を読んで、認知行動療法の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ABC理論」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第10回	・家族療法(家族療法とは、家族療法の歴史、家族療法の諸理論、家族療法の特徴)	事前学習	テキスト pp.162～174 を読んで、芸術療法について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「リフレーミング」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第11回	・芸術・表現療法(芸術・表現療法とは、芸術・表現療法の歴史、芸術・表現療法の実践、芸術・表現療法の特徴) ・実習(バウムテスト)	事前学習	テキスト pp.162～174 を読んで、芸術療法について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「箱庭療法」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第12回	・心理療文献の検討2(芸術・表現療法の事例)	事前学習	芸術・表現療法の事例文献をよく読み、自分なりの理解をしておく。
		事後学習	カウンセラーの応答について読み直して理解を深め、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第13回	・森田療法(森田療法とは、基礎理論、治療理論、森田療法の実践、森田療法の特徴) ・内観療法(内観療法とは、内観療法の歴史、内観療法の実践、内観療法の効果、内観療法の特徴)	事前学習	テキスト pp.178～185、pp.188～192 を読んで、森田療法と内観法の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	森田療法・内観療法がどのような人に向いているのか調べノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。

第14回	・集団心理療法（さまざまな集団心理療法、精神分析的集団精神療法、心理劇）	事前学習	テキスト pp.195～203 を読んで、集団心理療法について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「エンカウンター・グループ」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第15回	・訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援 ・まとめ（用語・概念を中心に復習する）	事前学習	テキストを読み直して、臨床心理学の用語・概念について復習し、疑問点を明確にする。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について辞典などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。